

JAL闘争を支える京都の会News No.101

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

解雇されてから14年目！

今年こそ勝利的争議解決を！

2023年12月26日、大手筋商店街（京都市伏見区）でJAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「自立労連」、「合同繊維労組」、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」の皆さんなど、計15人にご参加いただきました。今回の宣伝行動にはJAL客乗争議団の神瀬麻里子さんが参加しました。

神瀬さんは以下のように訴えました。「私はJALに1977年の12月に入社した。客室乗務員としてJALの安全を担ってきたが、33年と1ヵ月後の2010年12月31日大晦日の鐘が鳴ると同時に解雇になった。まもなくまる13年になろうとしている。13年も経つのに、もうそろそろあきらめたらどうなんだろうとJALは思っているかもしれない。しかし航空の安全を蔑ろにし、働くものの人権を踏みこ



じったJAL・日本航空のことを私たちは許すわけにはいかない。先ほども駒井事務局長が紹介したが、この22日、JAL・日本航空は国土交通省から業務改善勧告を受けた。これは航空会社にとって恥ずべきことである。しかも中身がとてもひどいと思う。仕事をする上



で間違いが起きることはあり得ると思うが、この航空法違反にあたる間違いを、会社ぐるみで隠蔽していたことがわかった。皆さん、私は1985年123便事故の日もフライトをしていた。そしてその123便事故では520名もの尊い命と暮らしが奪われた。それを奪ったのはJAL日本航空である。航空会社の第一に目指さなければならないのは、乗ってくださったお客様の身の安全である。この事故を境にJALは様々なことを改善したが、今になってもまったく体質

は変わっていない。私たちが所属するJAL被解雇者労働組合委員長の山口が入社してからJALで起きた航空事故による死亡者は731名にのぼっている。なかなかそのことをマス

コミは書いてくれない。事故があった時しか書かない、それが日本のマスコミの特徴であると思う。そんな事故が今回は起こらなかった、それだけでも、とてもラッキーだったと思う。



しかも私たちが本社前抗議行動をおこなう12月22日に、私たちが団体交渉拒否で東京都労働委員会に訴えている国土交通省がJALに改善勧告をおこなったことは象徴的な出来事だったと思う。私たちの仕事は航空機事故と背中合わせである。私たちの訴えがJALの赤坂社長に届くよう願う。あと5日で13年にもなるこの解雇問題を解決することは、私たちにとって良いことであるだけでなく、会社にとっても株主にとっても社会的にも良いことである。こ

んな不名誉な事件を抱えたままJALは14年目を迎えるのか。私たちを解雇した、当時の最高責任者である稲盛和夫氏の地元であるここ伏見の皆さんには、そのことをぜひご理解いただきたい。」と訴えました。

神瀬さん（JHU）の参加報告（JAL不当解雇撤回争議団のfacebookから）

2024年1月11日

「きょうとユニオン 2024年旗開き&争議勝利報告・激励集会」に参加させていただきました。さまざまな闘いの経過とその闘いに丁寧に寄り添ってこられたユニオンのみなさんの思いを伺い、大いに励まされました。ありがとうございました！



2024年1月5日

京都総評の旗開きにお招きいただきました。梶川議長、自由法曹団の福山弁護士、倉林参議院議員をはじめ、皆さんの挨拶に心を打たれ、励まされました。2日の事故のことも話題になりました。この闘いはJALの安全を取り戻す闘いでもあります。今年も頑張ります。壇上に飾られていたお花をいただき、さらにハッピーな気持ちになりました🌸



次回 宣伝行動 (呼びかけ JAL闘争を支える京都の会)
1月30日(火) 午後2時~3時 伏見・大手筋商店街